

3 電源開発の歴史を見よう

電源開発の歴史

電気を作り出す水力発電

只見川の電源開発の歴史は1910年（明治43年）に始まります。只見川は山あいであり、流れが急で、雨や雪の量も多く水量が豊富なため、水力発電所建設の有力な候補地でした。

1951年（昭和26年）に、只見特定地域総合開発計画が定められ、田子倉ダムなどの大規模ダム・発電所をはじめ、多くの水力発電所が建設されました。

西暦 (和暦)	電源開発の歴史
1946年 (昭和21年)	「宮下ダム」(三島町) が完成。
1952年 (昭和27年)	「沼沢発電所」(金山町) が完成。
1953年 (昭和28年)	柳津ダム(柳津町) と片門ダム(会津坂下町) が完成。
1954年 (昭和29年)	本名ダム(金山町) と上田ダム(金山町) が完成。
1959年 (昭和34年)	田子倉ダム(只見町) が完成。
1961年 (昭和36年)	滝ダム(金山町) が完成。
1963年 (昭和38年)	大鳥ダム(只見町) が完成。
1982年 (昭和57年)	第二沼沢発電所(金山町) が完成。
1989年 (平成元年)	只見ダム(只見町) が完成。

只見川には
たくさんのダムが
あるんだね



建設中の田子倉ダム(只見町) ▲

いろいろなダム



田子倉ダム(只見町) MAP A-3
最大出力: 400,000kW
ダム高さ: 145.00m
最寄駅: 只見



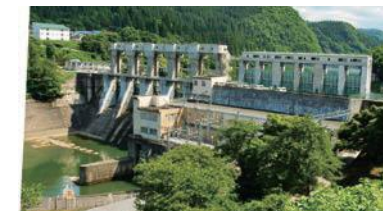
宮下ダム(三島町) MAP C-2
最大出力: 94,000kW
ダム高さ: 53.00m
最寄駅: 会津宮下



滝ダム(金山町) MAP B-3
最大出力: 92,000kW
ダム高さ: 46.00m
最寄駅: 会津塩沢



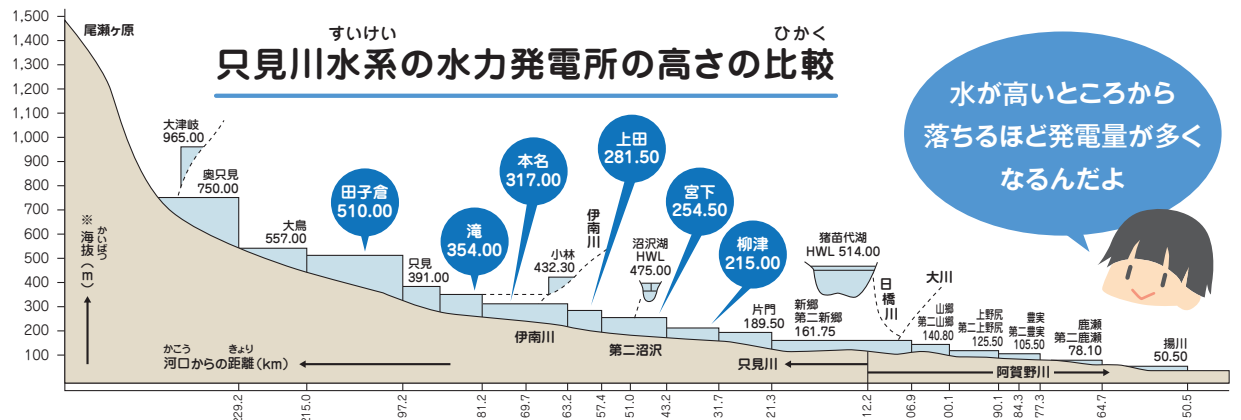
本名ダム(金山町) MAP B-2
最大出力: 78,000kW
ダム高さ: 51.50m
最寄駅: 本名



柳津ダム(柳津町) MAP C-2
最大出力: 75,000kW
ダム高さ: 34.00m
最寄駅: 郷戸



上田ダム(金山町) MAP B-2
最大出力: 63,900kW
ダム高さ: 34.00m
最寄駅: 会津中川



水が高いところから
落ちるほど発電量が多くなるんだよ

※海拔とは: 海水面から測った陸地の高さのこと

電気はどこに行く?

家庭や会社の電気へ

田子倉ダムをはじめとする只見川にあるダム全てで、1時間で最大約170万kWの電力を作り出すことができます。これらの電気は、送電線・変電所を通して関東地方や東北地方および新潟県の家庭や会社に送られ、日々の生活に使われています。

1家庭あたり1日に使う電力は
平均約13kW。
約13万世帯で1日に
使われる電力を1時間で
作り出しているんだね

電源開発の立役者

白洲次郎



▲ 旧白洲邸武相荘提供

戦後の日本に大きな影響を与えた人物で、初代東北電力会長として只見川の電源開発に尽力しました。

本名ダム、上田ダム、柳津ダム、片門ダムに白洲次郎の言葉が刻まれた記念碑が建てられています。

白洲次郎記念碑(上田ダム) ▼

